

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

誰もが安心して学び、自分を伸ばすことができる地域の学校へ

- 1) お互いの存在を大切に、ルールやマナーを育む (自分と仲間を大切にできるチカラ)
- 2) 誰にでも分かりやすい学びとキャリア教育の充実 (社会に通じる学力と自己実現のチカラ)
- 3) 部活動、行事で個性と能力を磨きリーダーを育てる (自分を生かし地域に貢献するチカラ)
- 4) 「共生推進」を通じてインクルーシブな学びの場を創る (ともに学び、友と育つ優しいチカラ)

2 中期的目標

1. チーム学校（チーム信太）で生徒の学びの土台を作る一生徒指導、生徒支援の徹底で「安心して学べる」学校空間を作る
 - ア 全教職員で、あいさつ、時間の遵守、みだしなみ、美化活動及び授業態度等の基本的な生活習慣の改善・定着に取り組む。
 - イ 学校と家庭が連携して、遅刻指導を推進する。指導を通じた生活状況の把握と生活習慣の改善を促す。
※年間延べ遅刻者数を 10%減とし、平成 31 年度には 3,000 未満とする。(平成 28 年度 3,118 回、平成 27 年度 4,121 回)
 - ウ 教育支援体制、生徒の相談機能の充実、生徒情報の共有化、3年間を見通したきめ細かい生徒指導を行う。
 - ・「信太教育支援体制」を確立させ、学年会議、担任会、教育支援委員会、共生推進コーディネーター、保健室等の間で生徒情報の共有を早期から行う。教育支援カードの活用、個別支援計画等の作成と活用で生徒の継続的な支援を行う。特に個別支援の必要な生徒については、「合理的配慮」の観点から抽出や入り込みなどの具体的な方法を講じる。
 - ・スクールカウンセラー 2 名の引き続きの活用と、キャリアカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用を学校して継続させ、地域諸機関、NPO 等との連携で生徒支援のネットワークを作る。課題早期発見フォローアップ事業において学校における居場所づくりを実施。
 - エ 人権教育の充実でいじめがなく一人ひとりが大切にされる学校へ人権教育指導計画の作成。
 - ・いじめ防止パイロット校としていじめアンケートの実施、スクールカウンセラーを活用し、いじめの防止、早期発見の体制づくりに努める。
 - ・「誰もが心地よい学校行事」を継続させて、校内でお互いの個性や人権を認め合う学校文化を育成する。
2. 誰にでも分かりやすい学びとキャリア教育の充実
 - (1) 「学ぶ力」プロジェクトの継続（チーム A、U）
 - ア ・新指導要領が謳う「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ」と、「困り感」を持つ生徒の学習支援のために、昨年度の**チーム A（アクティブラーニングチーム）**と**チーム U（ユニバーサルデザインチーム）**の成果を継承する。昨年度は校内研修 8 回を「協同学習」「観点別評価」「先進校からの報告（大正高校）」「知識構成型ジグソー法」「ソーシャルスキルトレーニング」で行い、先進校視察、校外の研修にも多数参加した。本年度は、昨年度の成果を踏まえ、授業実践に移す。
 - ・29 年度はチーム A とチーム U で、場合によっては合同（チーム AU）で以下のテーマに焦点をあてて研究と実践を行い、6 月研究授業→10 月校内研修で還元→11 月「学ぶ力」PT 公開授業のサイクルで校内外へ成果を発表する。
※平成 31 年には教員のユニバーサルデザイン授業の意識度 90%（H28・57%）、アクティブラーニング意識度 70%（H28・34%）とする。

◎チームでの探究テーマ案

①	授業のベースづくり	めあて、振り返り、板書の構成、単指示など、どの授業でも必要な、信太の「授業 BASIC」を作る。
②	観点別評価の工夫	観点別評価（目標準拠評価）の内容整理、ルーブリック評価、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価等の実践と検証を行う。
③	協同学習、グループの学び	班活動やグループワーク、ジグソー法などの実践によって、クラスや集団として学習効果を高める方法の研究を行う。
④	学び直し、ソーシャルスキルトレーニングの授業	学習に困り感のある生徒や共生推進生徒への個別支援や教材、ソーシャルスキルトレーニングの研究を行う。

(2) キャリア教育の充実

- ア 3年間を見通した系統的・組織的な進路指導体制の定着を図る。
- イ 1・2年の早期から大学・企業などの体験学習等を積極的に行い、生徒一人ひとりの進路目標を確立する。
- ウ 漢字検定やパソコン検定等について引き続き取得の奨励を行うが、さらなる上位級への挑戦を図るため受検のあり方を見直す。
- エ スポーツ科学専門コースの充実を図り、リーダーを育成する。
 - ※ 卒業時の進路決定者を平成 31 年度に 97%にする。(平成 28 年度 94% 27 年度 91%)
 - ※ 生徒・保護者の進路指導満足度を平成 31 年度にともに 85%以上にする。(平成 28 年度 生徒 80%、保護者 74%)
 - ※ 就職内定率は 100%の達成・継続をめざす。
3. 開かれた学校づくりと部活動の充実
 - ア 運動部活動及び文化部活動の一層の充実を図るとともに、部活動加入率 50%以上をめざす。
 - イ 学校説明会・体験入学などの充実を図るとともに、中学校や塾などへの訪問活動を推進する。学校ホームページ、学校紹介 DVD、学校案内リーフレット、メールマガジン等の更新・活用により、積極的に情報を発信する。
 - ウ 地元中学生を招いた部活動交流会、中学生対象の講習会や中学校教員対象の指導者講習会を実施する等、地域の拠点校となる。生徒会、部活動を通して、地域の活動等に積極的に参加し、小・中学校や福祉施設など各機関・団体との交流・連携を推進する。
4. 共生推進教室の充実とインクルーシブな学校づくり

本年度で四年目となる「共生推進教室」について一層の充実を図り、インクルーシブな学校づくりを進める。

 - ア 信太高校全体の活動を通じて、障がいのあるなしにかかわらず、すべての生徒が「ともに学び、ともに育つ」教育をすすめる。
 - イ 共生コーディネーター、進路指導部、学年が連携し、関係機関との連携で就労を進め、共生の生徒の自立に向けた取組みを支援する。
5. チーム学校（チーム信太）で学び合い、力を合わせて生徒を育てる体制づくり

分掌や学年をこえた同僚性の確立、教職員相互の人権意識の確立、週 1～2 回の初任者研修を実施。
フレッシュパーソンズ研修は、経験年数の少ない教職員をスタッフに登用し、併せて広報活動、地域連携活動を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の評価「教育方針や教育情報をわかりやすく伝えている」については、73.6% (H28:71.1%)であり、昨年度から 2.5 ポイントの増加である。引き続き情報発信を行なっていく必要があり、その際には、これまで以上に「本校の特色を明確にすることが重要である。 <p>【進路指導・生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の「自分は遅刻や頭髪等のルールを守っている」は、87.5% (H28:87.3%)で微増あるが、生徒指導の生徒の納得度は、48.5% (H28:54.8%)と減少。これまで以上に生徒、保護者、教職員の納得のいく生徒指導を行う。 生徒の「進路や生き方について考える機会がある」は、74.8% (H28:79.7%)で約 5 ポイントの減少であるが、保護者の「進路実現に向けた指導が適切」は、76.2% (H28:73.7%)であり、系統的・継続的なキャリア教育を充実させる。 <p>【教育相談・人権・共生推進教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「先生はいじめ等見逃さずに対応」の項目は、生徒 56.9% (H28:46.7%)、保護者 68.6% (H28:62.6%)、ともに、過去 3 年間で最も高い数値となった。本校では、教育支援委員会に加えて、複数名の SC、SSW を配置し、きめ細かな教育支援体制が整っているためであり、さらに、生徒の困り感に寄り添った支援をしていく。 『障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育』の項目は、生徒は、62.7% (H28:52.4%)であり、毎年 10 ポイント以上上昇。共生推進教室が今年度で 4 年目を迎え、一緒に授業を受ける機会や学校行事を通して生徒たちの理解が深まっている。 <p>【学校生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度と比較すると、生徒は、「学校生活は充実している」63.4% (H28:74.0%)など、全項目において低い結果となった。一方で、保護者の結果からは、「信太高校の学校行事」66.6% (H28:63.7%)や「子どもは自分のクラスが楽しい」72.5% (H28:69.0%)の評価が昨年度よりも高い結果となった。これより、保護者の本校に対する信頼感があると伺える。しかし、生徒の満足感を高められるようにするために、生徒が「楽しい」と感じ、達成感を持たせる教育活動の工夫を行う。 <p>【学習・体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業がわかりやすく理解できている」の生徒の評価は、51.4% (H28:53.1%) [3 年 56.8% 2 年 37.3% 1 年 60.7%]であり、生徒の回答は学年によって違う傾向が見られた。1 年生については、アンケートを取り始めてから最も高い数値となり、2 年生では、昨年度と比較すると 13 ポイントの減少、3 年生は昨年度に比べ、約 6 ポイントの増加であった。 「先生はテスト以外のさまざまな評価を取り入れて成績を出している」の生徒の評価は 2 年続けての増加となった。これは、「学ぶ力」プロジェクトチームの教職員が中心となって、評価方法についての研究を進め、研修等を通じて、その成果を教職員全体で共有してきた成果である。 保育体験など体験活動に対する生徒の評価 45.5% (H28:40.4%)、保護者の評価は 62.7% (H28:51.3%)昨年度より 5～10 ポイント以上増加。これは今年度、進路指導部、活性化委員会等を中心に体験活動について重点をおいた結果である。 <p>【特別活動・その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 信太高校の部活動については、昨年同様、生徒・保護者・教職員いずれも高い意識を持って取り組んでいる。一方、部活動加入率については半数には満たなかったため、半数を目標とし、より一層、部活動の活性化を行う。 	<p>■第 1 回学校協議会 (6/10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成 29 年度学校経営計画及び学校評価 ・10 年前と比べて、中途退学は、5%以上減少、遅刻者数は、1/3 以下になっている。これは、日々の生徒指導に加えて、様々な教育活動が功を奏しているのではないかと。(平成 28 年度：退学率 0.7%、遅刻者数 3,118 回) ・学校生活の中で、参加するのが楽しいと思えるような成功体験が重要。 ・一人ひとりの特性をどう生かすのか。カリキュラムとのすり合わせが課題。 ・自己肯定感の低さが、授業のわかりやすさの低さに出ているのではないかと。 <p>■第 2 回学校協議会 (11/10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業見学及び意見交換 ・グループワークの際、導入部分で工夫、協力の仕方について、具体的な指示が必要。加えて、誰がリーダーや副リーダーをするのかを決めればよい。 ・共生推進教室の公開授業では、生徒の集中力が素晴らしい。 ・グループ活動は、学校によって難易度の違いはあるが、生徒の主体的な学びを促すために必要。物理と数学のコラボなど実生活に根差した授業実践は興味深い。 <p>■第 3 回学校協議会 (1/20)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成 29 年度学校経営計画及び学校評価、平成 30 年度学校経営計画の策定 <p>【学校運営】</p> <p>【進路指導・生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭髪指導については、生まれつき地毛で茶色やくせ毛の生徒もいるので、日頃からの教員と生徒とのコミュニケーションが大切。普段から「人はそれぞれ違う」という異文化を受け入れる環境づくりが必要。 <p>【教育相談・人権・共生推進教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の「いじめ等を見逃さず対応」10 ポイント以上増加し、56.9%となっているが、約 40%の生徒は相談できない状態。アンケートに書けない生徒や先生に相談できない生徒の声をどう拾うかは今後の課題。 <p>【学校生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の取組みとしては、肯定的評価が上がっているが、生徒の学校生活充実度は肯定的評価が 63.4% (H28:74.2%)と下がっているのは、生徒の自己肯定感が低いのではないかと。 <p>【学習・体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で教員がセティングし過ぎるのは、生徒にとって良くない。授業で試して、生徒の様子を見て、常に授業内容を改善していくことが大切。 ・教員は、生徒が絶対に達成できる細かい目標を設定することで、生徒の自己評価を高め、生徒の自信につなげる。例えば、100 点を取れる小テストの実施など、生徒自身、学力がついていることを実感することが必要。「何を教えるか」ではなく、「何ができるようになったか」が重要。 ・新教育課程に向けて、英語教育では話すことを重視する流れ。和泉市では、英語検定の補助があるが、たとえ強制でも生徒が資格取得できれば、自信につながる。 ・1・2 生からの保育や看護の体験学習が充実してきた。体験学習をきっかけに自分の進路を決める場合も多いのでさらに充実してほしい。 <p>【特別活動・その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献などで、地域の人が生徒に声掛けできる関係は大切。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 の チ ー ム 学 校 の 土 台 を 作 る で 生 徒</p>	<p>ア 全教職員で基本的な生活習慣の定着に取り組む。 イ 学校と家庭が連携して、遅刻指導を推進する。 ウ 教育支援体制、生徒の相談機能の充実</p>	<p>ア あいさつ、時間の遵守、みだしなみ、美化活動及び授業態度等の基本的な生活習慣の改善・定着に取り組む。月 2 回の服装頭髪指導を行う。 イ 早朝登校、保護者との話し合いなどを取り入れた遅刻指導を推進する。 ウ 「信太教育支援体制」を確立させ、学年会議、担任会、教育支援委員会、共生推進コーディネーター、保健室等の間で生徒情報の共有を早期から行う。教育支援カードの活用、個別支援計画等の活用。 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用と諸機関との連携で生徒支援、いじめ防止のネットワークを作る。課題早期発見フォローアップ事業において学校における居場所づくりを実施。</p>	<p>ア ・全職員による早朝の服装頭髪指導 (月 2 回) を継続する。 ・自己診断での「学校生活の充実度」80%以上を達成する。 イ ・年間延べ遅刻者数を 3000 未満 (H28・3,118 回、H27・4,121 回) ウ ・教育支援委員会の位置づけの明確化及びケース会議のさらなる充実 (H28・支援委員会 10 回、ケース会議 SC 関係 26 回、SSW 関係 16 回) ・スクールソーシャルワーカーの活用 (H28・10 回) を維持、年 5 回の NPO による居場所づくりを実施</p>	<p>ア ・全職員による早朝の服装頭髪指導 (月 2 回) と毎朝の挨拶運動実施。 (○) ・学校教育自己診断での「学校生活充実度」63.4% (△) イ ・年間延べ遅刻者数 2,947 回 (H28・3,118 回) (◎) ウ ・SSW、SC 等外部人材を含めたチーム信太による生徒支援体制を確立し、「いじめフォーラム」にて実践報告を行った。 ・支援委員会 10 回 ・ケース会議 SC 関係 38 回 ・SSW 関係 16 回 ・NPO に寄る居場所づくり年 10 回 ⇒学校教育自己診断の「命の大切さや人権について学ぶ機会が多い」6 ポイント以上増加 69.7 (H28:63.3%) (◎) ⇒学校教育自己診断の「いじめや暴力のない学校づくり」微減 61.7% (H28: 63.5%) (△) ⇒学校教育自己診断の「いじめ等を見逃さず対応」10 ポイント以上増加 56.9% (H28: 46.7%) (◎)</p>

府立信太高等学校

<p>2 充 実 誰 に も 分 か り や す い 学 び と キ ャ リ ア 教 育 の</p>	<p>(1) 「学ぶ力」プロジェクト推進 ア 「学ぶ力」プロジェクトチーム</p>	<p>ア チームA(アクティブラーニングチーム)とチームU(ユニバーサルデザインチーム)、場合によってはチームAUの合同で、「授業BASIC」、観点別評価、グループ学習、ソーシャルスキルトレーニングなどのテーマに焦点をあてながら、年間6回の研修及び研究授業を行い、教員の授業力向上を図る。 ・参加教員が11月の公開授業週間等でテーマ別の研究授業を行う。 ・大阪府内外の先進校視察を行なう。</p>	<p>ア・自己診断の生徒の授業理解62%以上(H28・53%、H27・60%) ・教員授業見学回数全員複数回実施(H28・92%) ・教員のユニバーサルデザイン授業の意識度70%(H28・57%)参加型学習意識度50%(H28・34%) ・プロジェクトチーム年5回以上 ・先進校視察述べ10人以上。</p>	<p>ア・泉大津市教育委員会と連携し、「学ぶ力」プロジェクトチームの公開授業23人、中学校出前授業5人、教職員研修を実施し、全教員に共有化。 ・「生徒の授業理解度」51.4%(H28: 53.1%) (△) ・教員授業見学複数回実施90.7%、教員のユニバーサルデザイン授業の意識度88.4%、参加型学習意識度93.0% (◎) ・プロジェクトチーム全体会3回、グループ別会議5回×4 (◎) ・他校の視察や出前授業 延べ20人 (◎) ⇒学校教育自己診断の「様々な評価の工夫」74.5%(H28: 73.6%) (○) ⇒授業アンケートの「生徒の興味・関心」3.04 (H28: 2.97) (◎) ⇒授業アンケートの「生徒の知識・技能」3.07 (H28: 3.00) (◎)</p>
	<p>(2) キャリア教育の推進</p>	<p>ア 3年間を見通した系統的・組織的な進路指導体制の定着を図る。 ・生徒一人ひとりの進路目標を確立させるために、1・2年の早期から大学・企業などの体験学習等を積極的に行う。 ・総合的な学習の時間の内容の検討を行う。 イ 漢字検定やパソコン検定等について引き続き取得の奨励を行うとともに、さらなる上位級への挑戦を図る。 ウ スポーツ科学専門コースの充実を図り、リーダーを育成する。</p>	<p>ア・卒業時の進路決定率97%(H28・94%、H27・91%) ・生徒・保護者の進路指導満足度ともに82%以上(H28・生徒80%、保護者74%) ・就職内定率は100%の継続をめざす。 イ・漢字検定合格率60%以上(H28・59%、H27・58%) ウ・スポーツ科学専門コースの満足度93%以上(H28・92%)</p>	<p>ア・保育体験等の充実と3年間を見通したキャリア教育計画の作成と施行実施 ・卒業時の進路決定率96.4% (△) ・生徒の進路指導満足度74.8%(H28: 79.7%) (△) ・保護者の進路指導満足度76.2%(H28: 73.7%) (△) ・就職内定率100% (○) ⇒学校教育自己診断における「体験活動や体験学習」45.5%(H28: 40.4%) (◎) イ・漢字検定合格率60.3% (○) ウ・スポーツ科学専門コースの満足度92.5%(授業アンケートの「興味・関心」、「知識・技能」) (○)</p>
<p>3. 開 か れ た 学 校 づ く り と 部 活 動 の 充 実</p>	<p>ア運動部及び文化部と学校行事の活動の一層の充実を図る。 イ学校説明会・体験入学などの充実を図る。 ウ生徒会、部活動を通して、地域の活動に参加。</p>	<p>ア 部活動環境のさらなる整備と行事の充実を図る。 イ 中学校や塾などへの訪問活動を推進する。学校ホームページ、学校紹介DVD、学校案内リーフレット等の更新・活用により、積極的に情報を発信する。 ウ 地元中学生を招いた部活動交流会、中学生対象の講習会や教員対象の指導者講習会を実施する等、地域の拠点校となる。小・中学校や福祉施設など各機関・団体との交流・連携を推進する。</p>	<p>ア・部活動加入率44%以上(H28・42%) ・部活動生徒による広報活動の開始。 イ・校内での学校説明会年8回、体験入学満足度98%以上(H28・97%) ・中学校訪問100校以上、 ウ・地域行事参加年間10回以上(H28・8回) ・地域清掃活動年間30回以上(H28・28回) ・中学生対象部活動行事年間6回以上(H28・6回)</p>	<p>ア・部活動加入率42.3% (△) ・近畿総合文化祭において、吹奏楽部生徒15名が実行委員として運営に参加。演劇部が優秀賞。書道部、共生推進教室が出展。 (◎) イ・校内での学校説明会年5回、体験入学満足度98% (○) ・参加中学生の増加、7月214人、11月219人、1月166人 (H28: 7月136人、11月194人、1月108人) (◎) ・中学校訪問による生徒の情報交換延べ126校 (○) ・部活動生徒による学校案内の配付 (○) ウ・地域の夜回り(I T S 咲かせ隊)、「泉大津市隣接中高連携推進協議会」、「北助松周辺地区まちづくり会議」との連携活動参加15回 (○) ・地域清掃活動年間250回 (◎) ・部活動指導者講習会等(野球部1回、陸上部1回、男女バスケットボール部10回) (◎) ・HPをスマホ対応に全面改訂中ユーザー目線での改訂(2月中)。 (○) ・校長ブログ、修学旅行ブログ等リアルタイム発信。</p>

府立信太高等学校

4 共生推進教室の充実	<p>ア すべての生徒が「ともに学びともに育つ」教育を進める。</p> <p>イ 共生の生徒の自立、社会参加に向けた取組みを支援する。</p>	<p>ア ホームルームや行事を通じた障がい理解を進める。</p> <p>イ 共生コーディネーター、進路指導部、学年、が連携し、関係機関との連携で就労を進める。SSTを取り入れた自立活動の授業づくりを行う。</p> <p>ウ 学校説明会や学校訪問を通じて中学校、地域へ共生推進教室への理解を広げる。</p>	<p>ア・障がい理解のホームルームの実施</p> <p>・自己診断「ともに学ぶ教育が進んでいる」値を生徒、保護者 60%以上 (H28 生徒 52.4%、保護者 59.2%)</p> <p>イ・共生推進委員会、共生推進の生徒のケース会議の開催増、「自立活動」授業の公開。</p> <p>ウ・平成 30 年度選抜共生推進教室志願者 5 名以上を維持。</p>	<p>ア・学校教育自己診断の「障がいのある生徒と『ともに学ぶ教育』」生徒 10 ポイント以上増加 62.7%、保護者 7 ポイント増加 66.3% (◎)</p> <p>イ・共生推進委員会、共生推進の生徒のケース会議を毎週実施、個別の支援計画の職員会議における共有 (○)</p> <p>・「自立活動」授業を泉大津市教育委員会と連携し、公開授業を実施。 (○)</p> <p>ウ・共生推進教室志願者例年並み。(○)</p>
5. チーム学校の 職場づくり	<p>ア チーム学校（チーム信太）で学び合い、力を合わせて生徒を育てる体制づくり</p>	<p>ア 職員会議等を使ってふだんから教職員相互の人権意識の確立を進める。</p> <p>イ 初任者、経験年数の短い教職員への研修の定期化と研修を通じたメンターの役割教員の育成。昨年度行ったフレッシュパーソンズ研修は研修スタッフによる自主的な活動を取り入れて継続させる。</p>	<p>ア・教職員人権研修を充実し、全体の研修を年 2 回以上実施。(H28・1回)</p> <p>イ・週 1～2 回の初任者研修は、校長、教頭、首席が中心となってい、併せて広報活動、地域連携活動を行う。</p> <p>・フレッシュパーソンズ研修年間 5 回</p>	<p>ア・研修、委員会を「生徒支援体制」「学ぶ力 P T」を中心に統合。</p> <p>・大学教授や弁護士等の外部講師による教職員研修を年 2 回実施。(○)</p> <p>イ・管理職・首席等による初任者研修を週 1 回程度実施、授業実践や人権教育、コンプライアンス、生徒指導等の O J T による実践。(○)</p> <p>・外部教育産業を活用したフレッシュパーソンズ研修年 5 回 (○)</p> <p>・内規の見直し（委員会の組織改編）、類似の目的の委員会（いじめ、人権、支援教育、共生推進）の統合、委員の削減と責任の明確化 (○)</p>